



一般社団法人  
日本労働安全衛生コンサルタント会  
Japan Association of Safety and Health Consultants

## 神奈川支部ニュース

2015 年 3 月 31 日  
〒231-0026 横浜市中区寿町 1-4  
神奈川労働プラザ 7F  
Tel・Fax 045-633-3618  
<http://www.conkana.org/>

日本労働安全衛生コンサルタント会は、  
労働者の安全衛生水準の向上に寄与することを目的としています。

神奈川支部広報委員会  
発行責任者 中村幸男

### 化学物質のリスクアセスメント 無料相談訪問事業

平成 28 年 6 月 1 日から施行される、化学物質のリスクアセスメント無料訪問相談事業に当支部会員が相談員を委嘱されました。これは 10 年前に施行されたリスクアセスメントをより一層推進するため、2 年前から厚生労働省の委託事業としてコンサルタント会社 (T 社) が実施している無料訪問相談の活動です。相談員は 10 月から 4 ヶ月間の活動期間中に、50 を超える事業場 (従業員 10 数名～300 名以下) を訪問し化学物質のリスクアセスメントを実施する際の指導を行いました。委託事業は平成 28 年 3 月で終わりました。

#### 活動の特徴

この化学物質のリスクアセスメント支援事業の特徴は、気軽に申込みいただけることで、「化学物質は難しいとの思い込みアレルギーを緩和する」、「申込は口コミ・紹介などで障壁を出来るだけ緩和する」等、化学物質のリスクアセスメント申込障壁を低くし、簡便な方法で危険性・有害性が認識出来る方法 (コントロールバンディング) や支援方法を説明し実演 (パソコン操作) 指導を行います。

労働安全衛生法改正を知らない、あるいはリスクアセスメントの経験がない等の事業場にも対応しながら、新規事業場の開発のために従来からの事業場とは規模も事業内容も異なるルートの開発を進め、訪問先を捜し出す活動と訪問支援の実施を繰り返し、照会を頂いた事業所や関係先の信頼を築きながら活動を進めました。このような活動を通して新たな顧客関係も出来ています。

今回の無料訪問相談支援事業は「明確な支援内容」「無料で提供」「時間と場所は訪問先の希望で決める」「エリアを限定しない」「訪問先個別指導」と自由度が高いのですが、訪問指導先を開拓することに苦労しました。これによって得た達成感と訪問先との関係強化に非常に効果がありました。

今回の無料相談訪問事業は、化学物質のリスクアセ

スメントの推進だけに留まらず、コンサルタント業務の新たな方法を示したもので、従来とは別な新たなチャンネルですから訪問する個別事業場に誠意をもって対応実行する事が大事と実感しました。

この化学物質のリスクアセスメント支援事業にご協力いただきました事業場、関係機関・団体の理事の皆様、事業部員の皆様にお礼を申し上げます。

### 第三次産業(社会福祉施設,飲食店)の 無料安全診断を行いました

第 12 次労働災害防止計画に基づき、重点業種の第三次産業対策として、厚生労働省委託事業の社会福祉施設、飲食店の無料診断を行いました。

委託事業の規模は、全国で社会福祉施設 330 事業場、飲食店 250 事業場の計画ですが、神奈川支部は社会福祉施設 27 事業場を事業部員 11 名で、飲食店 22 事業場を事業部員 8 名で担当しました。

安全診断先の決定が 10 月から 1 月でしたので、訪問先の年末年始前後という慌ただしい期間と重なりました。そうした中で比較的短時間(約 1.5～2.0 時間)で職場診断およびヒアリングをおこないました。診断先からのアンケート結果は、『非常に役に立った』、『大変満足した』との感想が多く寄せられました。

今後は、今回の無料安全診断で繋がりのできた事業場に継続的なアピールをおこない第三次産業の労働災害減少に寄与していきたいと考えています。

第三次産業は国の施策の最重点業種として「安全衛生管理体制の構築、労働災害防止意識の向上」が目標として挙げられています。しかし、2 業種共、利用者への配慮は常日頃から行われていますが、職場の従業員への安全配慮は労働者個人任せの事業場が多く見られました。腰痛防止対策、リスクアセスメント活動等については、施設・店舗規模にもよりますが製造業・建設業に比べて活発ではない状態です。

今回の無料安全診断のみで終わらせずに、再訪問をして作業環境・安全管理の取り組み方等の変化を確認して、より安全な職場になる様、労働災害減少に寄与して行きたいと考えています。(了)

## 特別講演会の報告

現神奈川支部の前身である神奈川県労働安全コンサルタント会が 1975 年 5 月 12 日に設立されて 40 周年になることの記念特別講演会が、平成 27 年 6 月 12 日、神奈川支部総会の総会に先立ち神奈川労働プラザ 4 階会議室にて参加者 60 名余りで支部総会に先立ち開催されました。講演者に神奈川支部の生き字引でもある沼野雄志相談役と神奈川産業保健総合支援センター所長の石渡弘一元支部長のお二人をお願いしました。講演に先立ち中村支部長からお二人の紹介がありました。

### 沼野雄志相談役の講演

まず、沼野先生が「100 人位のところではマイクは要らない、講演するのに座って喋るのは聞いている人に失礼」という前置きがあり、「神奈川県労働安全衛生コンサルタント会と日本労働安全衛生コンサルタント会神奈川支部の歴史」と題してご講演がいただいた。



講演中の沼野雄志相談役

1960 年から 1975 年にかけて石油コンビナートで爆発火災が相次いで発生し、通産省が安全技師制度の創設に動き出し、労働省も関心を示したことが労働安全衛生コンサルタントの生まれるきっかけとなったが、実際にコンサルタントが誕生するまでには役所間の調整があった。通産省と労働省との調整で主管が労働省、安全衛生コンサルタントを社外にもうけるということで決着した。日本医師会の武見会長から医師の上の資格を作ることに反対「医者に試験をすとはけしからん」というような紆余曲折があり、ようやく 1972 年 6 月 15 日に第 1 回労働安全・衛生コンサルタント登録が行われた。

1975 年に神奈川県労働安全コンサルタント会（以下、神奈川会という）が会員数 31 名で設立

した。ほとんどの人が特例（無試験）でコンサルタントになり、既に技術士、社労士として成功していた方ばかりで、仕事の受託には困っていなかった。1977 年 3 月には神奈川労働基準局長の勸奨で、安特・衛特事業場の診断指導が具体化し、安全衛生管理特別指導事業場の説明会に出席して PR した結果、12 事業場から安全診断とその後の指導を受託し、その後も毎年継続的に指定事業所の半数の事業場から仕事を受託できた。

1982 年度からは中小企業経営者災害補償事業団（KSD）より安全診断を受託、労働基準監督署が名簿を作ってくれ、事業場には診断料が無料ということで、お客様にも喜ばれ、向こうから仕事がやってくるという今では考えられない良き時代であった。

神奈川会は会員が収入に応じて拠出した会費で独自の事業を続け、それなりに成功してきた自負から日本労働安全衛生コンサルタント会の支部組織に移行することに対して根強い反対があったが、全国的な動きに逆らえず、1992 年に神奈川支部に移行することになり、神奈川会会員は事業部員となった。

現在神奈川支部が抱える問題点として神奈川支部には 200 人余りの会員がいるが、支部内で活動しようと思っている会員は半分位しかいない。産業医でコンサルタント登録すると産業医として受けなければならない研修を免除されるということで入っている人もいる。本部で会費を徴収しているので支部で会費が取れないため、支部の活動を支えているのは別途部費を納入している事業部員となっている。神奈川支部の活動をもっと活性化するには一般会員にもっと活動に参加して貰えるよう、事業部と支部の関係を見直しし、両方が上手く行くようにすることが必要ではないかという提言で講演を締められた。

### 石渡弘一元支部長の講演

#### 神奈川産業保健総合支援センター所長

引き続き、石渡先生から「人間の機能から安全を考える」という題でご講演をいただいた。

最初にこの仕事を始めた動機について、55 歳になった時、臨床の仕事を辞めた。人生を振り返ったとき世の中の役に立つことをしたいということで病院勤務医をやめ、産業医の道を選んだ。

この仕事を進める中で役所との付き合い方をいやというほど勉強した。そのことが今、役に立っている。役所とまともに勝負したら勝てないが、役所は縦割りになっているので、横をつなぐことをしてあげれば喜んでもらえるがそれ

には知恵が必要。ちょっとした横をつなぐ知恵で予算が付くこともある。

国からお金を貰って仕事をしようとする競争入札が原則で、これに耐えるには体力と知力がある。地域センターも一緒に、色々問題があって競争入札をしない形で補助金や交付金を貰うようにしたら事務量が膨大に増えたことが、地域センターの一番の問題である。この事務量をどうやって減らすか、これに対応するには個人では無理で組織で対応できるようにしなければならない。



講演中の石渡弘一元支部長

先ほど沼野先生からも話しのあった衛生コンサルタントの資格を持った医者が神奈川支部の中で機能しているかという問題について、12 次防で取り上げられている高齢者対策や受動喫煙を切り口にして、産業医の先生に参加してもらうのが良いのではないかと。例えば高齢者対策では今、チェックリスト方式でやっているが、人間一人ひとり違う。衛生だけでもダメ、安全だけでもダメで両方の頭脳を合わせて正しい対策を考える必要がある。

受動喫煙については縦割り行政の最たるもので、補助金と健康障害について担当課がそれぞれ違っている。高層ビルで新しく分煙室を作ろうとすると特殊配管が必要で 300 万円位かかった例もある。企業に分煙化を進めるときはこうした状況なども全て分かって提案しないと上手くいかない。

若者に対して教育をしていく時、マニュアルを作ってもマンガやゲームで育ってきているので文字が多いと読むはずがない。昔の教え方は通用しないので一工夫が必要である。

昼休みに照明を消している事務所が多いが、人の健康にとって本当に良いことなのか。見直す必要があるのではないかと。

昔の体育会系スポーツはティーチングでやっ

てきた。そこに岡田監督（サッカー）・平尾監督（ラグビー）が出てきて「考えること」を導入し、コーチも分業化している。安全も「考えること」を取り入れる必要があるが、このやり方は全てのことに通じるだろう。

最後に企業の中高齢対策について、今は重量物、運搬、姿勢をどうしようなどという簡単なことしかやっていない。こんなことで本当に対策になっているのか。人間の機能を見直して満足して働けるような環境作りが必要ではないか。働いている現場で異常を感じるのは五感の中で目と耳が 9 割。職場環境の中でこれらを大切にすることにより災害を減らすことができる。  
(文責 編集者)

## 大学理工系学部安全診断を実施

昨年度に引き続き今年度も県内の Y 大学の理工系学部の実験室の安全衛生診断を行いました。

何れの実験室も限られたスペースに設備及び機材を所狭しと設置し、様々な高圧ガス、無機系・有機系の化学物質等を使用しています。実験ということで、配管、電気配線、保管に、あまりにも”仮”というか”簡略”、”手抜き”が多く見受けられます。すなわち不安全状態となっています。それは正しい安全な方法をよく知らないことが原因と考えられます。

安全衛生診断のポイントは、設備や化学物質が関係法令及び大学が独自に作成した実験室管理マニュアルに基づいた運用管理状態、5S（整理・整頓・清掃・清潔・躰）について確認します。

診断時及び診断後の報告書では、現状の何が、法的・学内のルールへの対応に問題があり、その改善提案を理解してもらうことと、不安全状態がもたらし易い不安全行動に気付いてもらうことです。そうすることで災害の未然防止が図られるはずですが。

ある実験室を診断した際、実験用の化学物質が、薬品保管庫に炭素数の順番で整理されていました。5S を徹底している実験室は、効率の良い実験をしていると感じました。そして、本診断を通じてすべての実験室がこのようになるための手助けをできればとの思いを強くした次第です。

### 神奈川支部平成 28 年度定期総会を開催します

平成 28 年 6 月 24 日(金)

特別講演会：13:00～14:45（予定）

総会：15:00～16:30（予定）

情報交換会：17:00～19:00

場所 ワークピア横浜

ご出席くださいますようお願いいたします。

平成 27 年度の研修会、見学会を下表のように実施しました。主に事業部が主催し、毎回多くの事業部員、支部会員そして南関東の他支部からの参加者がありました。この研修は CPD の対象です。研究会・見学会の計画は支部会員にメールでお知らせするとともに支部ホームページにでも掲載しています。

回数	月 日	テーマ	講 師
1	平成 27 年 7/26 (土) 13:00 ~ 16:40	①新入部員の紹介 ②労働安全行政の現状と課題について ③職場の健康づくり 心と体の健康	①佐藤保夫 事業部員) ②神奈川労働局 安全課 酒井課長 ③富士通(株) 常務理事 三宅仁 氏
2	8/29 (土) 13:00 ~ 16:40	①新入部員の紹介 ③労働衛生行政の現状と課題について ③発想法、コンサルタント受注活動のヒント	①内沼創一朗 (事業部員) ②神奈川労働局 健康課 村上課長 ③ (公社) 神奈川労安協 平塚支部 廣澤事務局長
3	9/26 (土) 13:00 ~ 16:40	①新入部員の紹介 ②ストレスチェック制度の運用について ③溶接作業に関わる労働災害と職業性疾病	①秋葉雅夫 (事業部員) ②矢崎麻純 (事業部員) ③ (一社) 日本溶接技術センター 特別講師 永徳俊裕 氏
4	10/24 (土) 13:00 ~ 16:40	①新入部員の紹介 ②職場診断・職場巡視のレベルアップについて ③「仕事を受注できるようにするには プロジェクトを成功させるためには」	①前田啓一 (事業部員) ②森山 哲 (事業部員) ③ポジティブ・インテンション 代表 今野浩一 氏
5	12/5 (土) 13:00 ~ 16:40	①新入部員の紹介 ②・労働基準監督署 各課の業務の紹介 ・「” 過労死” 働き過ぎて死ぬということ ～労働基準法違反事件から～」 ③企業におけるコンプライアンス体制の構築、 法律関係の Q & A	①田村紀裕 (事業部員) ②相模原労働基準監督署 高山署長 ③弁護士 篠田貴和 氏
6	平成 28 年 1/23 (土) 13:30 ~ 16:40	パネルディスカッション 「顧客に頼られるコンサルタント」	【パネリスト】 二階堂 久、矢崎麻純 森山 哲 (事業部員) 【司会者】秋谷泰男 (事業部員)
7	3/12 (土) 13:30 ~ 16:40	①安全衛生管理の勘とコツ ②労働安全マネジメントシステムの ISO 化の 動向	①前田啓一 (事業部員) ②五十石 清 (神奈川支部会員)
上記のほか、神奈川支部は、見学会、交流会、ガイダンス、および情報交換会を実施しています。			
8	平成 27 年 4/6 (木)	(公財) 松下政経塾	1. 昨年に続き 2 回目の実施 2. 今回は埼玉支部と共催
9	7/25 (土)	事業部 特別研修会 低圧電気特別教育 講師のレベルアップ	森山 哲 (事業部員)
10	9/12 (土)	安全見学会 マンションの新築工事現場	場所：目黒区代官山
11	平成 28 年 2/19 (金) 13:30 ~ 14:30	優良社会福祉施設の見学会 (福) 喜楽会 特別養護老人ホーム 「よもぎの里 愛の丘」	

編集後記：第 33 号の発行から第 34 号の発行まで随分と間隔が空いてしまいました。お詫び申し上げます。

(了)